



## 令和五年度 四谷の千枚田地域 振興協議会の開催

開催日 令和六年三月十四日  
開催場所 新城市市民センター

実施主体は四谷の千枚田地域振興協議会に参加する鞍掛山麓千枚田保存会、四谷集落協定、四谷区長、NPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク、横浜ゴム(株)新城工場、チームTAKO、愛知東農業協同組合、(公財)農林業公社しんしろ、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課及び農政課、新城市産業振興部農業課で構成。事務局は鳳来総合支所地域課に置かれている。

### 会議の概要

会長の小山舜二は開催の冒頭に挨拶を兼ねて令和五年度の主なできごとを共有した。

この協議会は、令和三年四月十六日、国の「指定棚田地域振興活動計画」に認定され、発足。この制度の特徴は、棚田を国民の宝と位置づけ、農林水産省初め総務省、文部科学省、国土交通省、環境省など、すべての省庁と政党の枠組みを超えた超党派の同意で五年間の時限立法で成立されたものである。

昨年、和歌山県那智勝浦町で第二十八回全国棚田サミットが開催され、「棚田まもりびと」の立場で参加

した。私はパネリストの元農林水産省農村振興局地域振興課松本雅夫課長に棚田地域振興法は令和七年三月三十一日までの時限立法との話であったが、現在五期を継続中の中山間地域等直接支払制度も一期五年であったが、棚田サミットの強い要望で継続されている。棚田地域振興法も棚田の百姓に耕作意欲が湧くような温かい法律に改正し、是非とも、制度の継続をお願いしたい。そして、会場に向かい、今日、この席に現職の課長さん、棚田地域振興法の直接担当者であった松本課長さんもおられます。皆さん、大きな拍手をもって棚田地域振興法の継続をお願いしようではありませんか。と発言、会場から大きな拍手(賛同)を得た。そして、現在すでに二期に向かって進んでいるとの情報を得ている。

次に、農林水産省は、全国二百七十一の「つなぐ棚田遺産」選定地区から令和五年度棚田地域の振興等に貢献する二十三の企業・大学等を選定、横浜ゴム新城工場が「未来へつなぐ」部門に選定され、この二月八日に横浜ゴム新城工場講堂において愛知県新城設楽農林水産事務所村山所長から早見工場長に感謝状が贈呈されたことをご報告申し上げます。おめでとうございます。もう一つは、ふるさと・水と土ふ

れあい事業の採択を受けて平成十五年に完成した農道やふれあい広場などの施設整備も二十年を超し、寄る年波に老朽、劣化が見え始めた。施設整備二十年を視野に、行政などから依頼の講演などでは農道や水車などの老朽化の実態を説明、積極的に再整備をお願いしてきた。

その、要望の①として一昨年の十一月十一日には愛知県土地改良会館に於いて県農業土木関係の企画研修会の講演で施設の再整備の必要性を発言した。中電ホール他  
②昨年、五月二十二日、東海農政局長とのヒアリングでお願いした。  
③今年、一月二十一日、宮崎参議院議員に口頭で要望。おかげで、行政もすでに、動いていただいている。施設の再整備については、その他事項で説明を頂く。

昨年は、稲の開花期の長雨による受精の不具合や刈り入れ時の熱帯、挙句は二ホンジカが全部の田んぼに入るなど、耕作者には決して良い年とは言えなかった。それでも、千枚田の農家は頑張っている。と昨年度を振り返った。

協議事項  
本会議は、規約第十二条第二項に基づき小山会長が議長に、議長の名で議事録署名人名を四谷集落協定代表の村雲伸一さん、四谷区長の松下誠さんとし、議事を進行した。

四谷の千枚田地域振興協議会活動の内容として事務局から項目別に(1)令和五年度事業(実績)報告(2)令和六年度事業計画を併せて説明があった。①棚田等の保全○管理面積の維持○耕作放棄の防止・削

減では千枚田入口周辺、ふれあい広場、農道、周辺林地、無住地の荒廃農地等の草刈り、水路の除伐、稲作勉強会。②棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮○農産物の供給の促進では千枚田五平餅として古米の出荷販売、新米の限定販売。○自然環境の保全・活用ではアフリカ地域「稲作のための中核的農学研究者の育成」の技術研修(国際協力機構)。小学生の校外学習、地元小学校、豊橋調理製菓専門学校、愛知東農協こども農学校、ヤマサちくわの稲作体験など。○良好な景観の形成ではリアル案山子の管理など。③棚田を核とした棚田地域の振興○棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興ではお田植感謝の夕べ、収穫感謝祭の実施。第六回「四谷の千枚田」絵画コンクール(応募数四百六十一名)。四谷の千枚田だよりを毎月発行、新城市HPによる情報発信を継続(現在二百四十六号)。棚田米を活用した六次産業化の推進では千枚田五平餅を郵便局を通して通信販売、道の駅でも販売(八雲だんご)等々が報告、議事はスムーズに可決終了した。

### その他事項

施設の再整備Ⅱ愛知県新城設楽農林水産事務所建設課近藤技師からR5は劣化状況調査、R6は具体的な整備計画、R7は事業計画の予算計上等々の説明があり、本日の協議会を基に、地元の意向を踏まえ、再整備に向かって始動したい。

## 新入・幹部研修

四月三日、横浜ゴム新城工場新入社員(十六名)、幹部及びサポート(十五名)の千枚田研修を実施した。

研修の初めに、保存会長は平成十八年から貴社の研修受入れを行っている。私の持論は「企業は環境に配慮する責務がある」。横浜ゴムが取り組んでいる「千年の杜」の広葉樹の育苗に環境に優しく育てた稲わらがきっかけで同社が取り組む環境保全活動(河川生物モニタリング調査、ビオトープ造成管理・外来生物駆除)などの活動を通して絆は深い。今から日本三大石積み棚田の一つ、高低差二百以上の多様性に富んだ四谷の千枚田を皆さんと一緒に体感する。

**新城市長** 皆様、こんにちは。「ようこそ新城へ」市長の下江洋行でございます。はじめに、横浜ゴム株式会社新城工場へのご入社、誠におめでとうございました。「中略」さて、ご覧いただきました通り、この棚田は一枚一枚の水田の管理が行き届いているからこそ、今日までこの美しい風景を保全することができています。これもひとえに保存会の皆様の日頃の活動の成果によるもので「本市の宝」と言える場所となっております。多くのの方に訪れていただいています。四谷の千枚田は日本の棚田百選にも選ばれておりますが、ポスト棚田百選となる「つなぐ棚田遺産」にも選定され、全国二百七十一の棚田の一つとして農林水産大臣から令和四年に認定を受けました。この美

しい千枚田を保存する一助を、横浜ゴムの皆様に担っていただきますこと、心より感謝申し上げます。最後になりますが、新入社員、そして幹部社員の皆様のご活躍とご健勝、ご多幸、並びに社業の益々のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

**愛知県新城設楽農林水産事務所鈴木所長** ご入社、おめでとうございます。横浜ゴム新城工場は、この四谷の千枚田の保存活動に色々と貢献していただいております、その取り組みを評価する「つなぐ棚田遺産」未来へつなぐ部門」で二月八日に農林水産省から感謝状が贈呈されました。私たちも農林水産業の振興に携わっているものとして、大変喜んでおります。本日の研修は多様性に富んだ四谷の千枚田はカーボンニュートラルを体感、実践できる恰好の場所であります。「中略」保存会を初めとした多くの皆さんが、この棚田をお守りいただいたうえ、新城設楽地域の益々のご発展を、皆様のご努力、お力をお借りできればと思います。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

**概要説明**は吉野係長主導で、細部については会長がフォローした。(説明内容は湧き水の棚田、転石の石積棚田、モリアオガエル、山崩れの話など、特に環境を重視した説明を多くした)約一時間でふれあい広場に到着。恒例ではボランティア活動の予定であったが、雨のため中止とした。新入・幹部社員全員がふれ

あい広場から眼下に広がる棚田に「四谷の千枚田ありがとう」と大発声。頭を下げた。全員が頭を下げた時、木霊がありがとうくと、心地よく響き帰ってきた。



## 交流会 (身平橋集会所)

保存会からの就職祝いとして提供された「八雲だんご」を頬張りながら新入、幹部社員一人一人が出身地、将来の希望などを自己紹介。新入社員は概ね「一日も早く職場になれ、お金を貯めて大きな家を作る」とか、「大きな車(国産車・外車を問わず)を買う」。などであったこ

とと、出身地の多くが豊川、新城周辺であり、安定した会社であることが伺われた。幹部社員は「真面目に働いたおかげで、幸せな家庭を築いた。外車にも乗っている」。等々であった。

**廣川業務課長** まず、保存会、市の皆さんに本日の新入社員の激励に感謝の言葉を。社員には、今一番大切なことは環境を保全することである。保存会の皆さんは、今日の天気(雨)のような、また様々な日にも屈せず、棚田を守っています。これが、本当の環境保全である。本日の研修は、あいにくの雨、と思わず、何事も体験することが大事であり、それが体感できたと思っております。とびた。



鳳来寺小学校五年生から手作りの花を頂いた。嬉しかった。

行 令和六年四月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二